

赤城やまなみチャレンジキャンプ
～「目指せ！赤城七山制覇！」～
報告書

国立赤城青少年交流の家では、8月11日（金）～18日（金）の7泊8日の日程で、教育事業「赤城やまなみチャレンジキャンプ～目指せ！赤城七山制覇！！～」を開催しました。

この事業は、「①自然の中で長期間生活し、自然のすばらしさや厳しさを身近に感じる。②容易には達成できない困難な体験を通して、我慢すること、共に協力することを学び、乗り越えたときの達成感を味わう。③「自分のことは自分です」実践を通して、普段周りからしてもらっている自分を見つめ直すことで、支えてくれている方たちへの感謝の念を持つ。」の3つをねらいとし、「挑戦・協力・感謝」をテーマとして開催されました。赤城山を構成する主要な七山（黒檜山・駒ヶ岳・鈴ヶ岳・地藏岳・長七郎山・荒山・鍋割山）を踏破することを目標とし、前橋市赤城少年自然の家を拠点に7泊8日で行われました。参加対象は小学4年生から小学6年生までで、群馬県を中心に関東近県から13名（男10名・女3名）の参加がありました。

また、今年度の特徴として、「古道を歩く」コースを設定（自然の家～御神水～利平茶屋～自然の家）し、毎晩、ミーティングの時間を設け、その日の振り返りと翌日の日程の見通しをもてるようにしたり、班ごとに、4日目・5日目の2日間の日程表を作成し、その日程表に沿って2日間を過ごすことをしたりして、主体的・対話的・深い学びのあるキャンプになるようにしました。そして、テーマの1つである「感謝」の気持ちを表すために、家族への手紙を作成する活動を取り入れました。感謝の気持ちが言葉だけにならないようにするために、自炊・洗濯などできるだけ自分のことは自分でする時間を設けることで、「してもらっている自分からする自分へ」の意識付けを行うようにしました。

【1日目】

前橋市赤城少年自然の家で、開会式を行い、キャンプがスタートしました。登山行程は、赤城山の自然を楽しむコース（自然の家～長七郎山）でした。比較的難易度の低いコースでしたので、周りの景色を楽しみながら、参加者全員が登頂することができました。



【2日目】

登山行程は、「赤城山の自然を楽しむ」コース(自然の家～荒山)でした。長距離に慣れるコースで、今後の登山のための体力作りになりました。登山2日目ということで、班の中で、危険箇所などお互い声をかける姿も見られるようになり、班のまとまりもでてくるようになりました。また、連日の雨で、足場の悪い箇所では、何人か転倒もありましたが、みんな怪我もなく、ゴールできたので、子供たちのたくましさも感じました。さらには、今日からキャンプ場で、子供自身でテントを張り、本格的にキャンプ生活も始まりました。



【3日目】

この日から登山する日の昼食は、自分でつくる「おにぎり」です。「自分のことは自分でする」ことも今回のやまなみのテーマの1つになっています。1週間のキャンプを通して、「してもらう自分からする自分へ」の転換を図ります。今朝のおにぎりです、その第一歩を踏み出しました。

登山行程は、「激しい起伏を乗り越える」コース(自然の家～鋏柄山～鈴ヶ岳～出張峠～自然の家)でした。出発前、まず登山講師から注意事項や登山のポイント説明がありました。そして、今日は、難易度の高いコースなので、各班が円陣を組み、気合を入れてのスタートでした。鈴ヶ岳の登山コースは、起伏が激しいため、子供たちにとって、目の前に立ちの壁はとて高いものとなりました。それでも、班ごとに声を掛け合い、和気あいあいと登山道を進んでいきました。しかし、さすがに鈴ヶ岳を登頂した直後からは、誰一人として話さず、無言のまま昼食場所までたどり着きました。担当として、少し不安を感じましたが、さすがは子供たち。自分で作ったおにぎりを食べたら、気力体力も全快し、ゴールへと元気に向かいました。ゴール手前では、疲れた体を癒すため、大沼の水辺で石投げをするなど、ゆっくりする時間を過ごしました。



【4日目】

前夜の大雨の影響で、予定していた地蔵岳日の出登山は、やむなく中止となりました。日中も雨が降り続く予報でしたので、地蔵岳登山は、明日に行うことにしました。

この日から、「主体的、対話的で深い学びを目指す1日」が始まりました。1日の生活を班ごとに計画を立てて過ごします。天候の関係で、予定が大幅に変更となりましたが、子供たちは、班のみんなと協力しながら、主体的、対話的に行動している様子がたくさん見られました。子供たち自身で食事作りや片づけ、そして1日の計画を立てている姿から、どの子からもやる気がひしひしと伝わってきて、感心するばかりです。

この日は、登山をしない代わりに、赤城山の歴史に少し触れたり、子供たちとスタッフでドッジボールをしたりして、これまで溜まった疲れを癒し、心と体をリフレッシュすることもできました。長期キャンプでは、この日のような休息を十分し、リフレッシュすることも、翌日の登山に向けて、とても重要であることも、改めて感じる事ができた1日となりました。





【5日目】

この日もあいにくの雨でした。連日の雨で、心が折れそうでした。それでも、子供たちは、雨など吹き飛ばすくらい元気に活動していました。食事づくりや片づけも、日に日に手際がよくなり、たった数日間でも、子供たちの成長ぶりが感じられました。追い込まれば追い込まれるほど、それを跳ね返すほどの底力をもっている子供たちが多いように思われました。

さて、この日の登山行程ですが、前日に行われるはずだった地蔵岳登山でした。連日の雨で、ところどころぬかるみが多く、滑りやすい登山道でしたが、一步一步踏みしめて歩いていきました。地蔵岳登頂後、風雨の影響の少ない場所へ移動し、各自が作ったおにぎりを美味しく食べていました。自分でつくったおにぎりは、なんであんなに美味しいのでしょうか。つくづくそう思った地蔵岳登山でした。



【6日目】

この日もあいにくの雨でした。いったいどれだけ雨が降り続くのでしょうか。この日も大幅に予定を変更して、登山最終日に登ることになっていた鍋割山(姫百合駐車場～鍋割山～姫百合駐車場)に登りました。子供たちは、昨日に引き続きの雨でしたが、カッパを着ての登山にも慣れてきたようで、登山中も、各班ともワイワイ楽しくおしゃべりしながらでした。これで、やまなみチャレンジキャンプも、五山制覇(長七郎山、荒山、鈴ヶ岳、地藏岳、鍋割山)です。



【7日目】

ついに赤城七山制覇達成の日がやってきました。登るのは、日本百名山の黒檜山、そして駒ヶ岳です。曇ったり、小雨が降ったりの日でしたが、カッパを着たり、脱いだりするのは、もうお手のものです。子供たちは、天候に全く左右されずに元気いっぱい、黒檜山と駒ヶ岳に登りきり、赤城七山制覇達成となりました。七山制覇で頑張った後には、みんなで楽しくバーベキューをしました。バーベキューの後には、1週間を振り返るキャンプファイヤーでした。班ごとの発表あり、歌あり、ダンスありの楽しいキャンプファイヤーとなりました。



【8日目】

午前中に1週間のふり返り、午後に出発式を行いました。出発式では、前日に行われたキャンプファイヤーのスタンプ発表、班ごとのふり返りの発表、やまなみのテーマの1つである感謝を表すため、家族への感謝の言葉を綴った手紙を送り、子どもたちは、家族からのサプライズプレゼントとして手紙を受け取りました。そして、各参加者とも、新たな生活に向けて出発いたしました。



まとめ

「挑戦・協力・感謝」というテーマのもと、山登りやテント生活などに「挑戦」し、自炊をすることで、準備から片付けまで班ごとに行ったり、班で話し合っって1日の生活表を計画したりして、互いに支え合う仲間の存在に気づき、そこから「協力」する大切さを学んでいきました。

また、自分一人ではできない時には、仲間と協力したり、周りの人たちの支えによって、今の自分たちがいるということにも気づかされるキャンプとなり、自ずと「感謝」の気持ちも芽生えていきました。

7泊8日のキャンプを通して、目の前に立ちはだかる一つ一つの壁を乗り越えることで、着実にたくましく成長していく姿には、大変頼もしさも感じました。

1ヶ月後の事後アンケートでの参加者の変容については、「頑張ってやり遂げようという気持ちが強くなった。」「自分の洗濯物をたたむようになった。」「天気予報を気にして、それに合わせた服装を選ぶようになった。」「他人への気遣いができるようになった。」「人に頼らず、自分でするようになった。」など、キャンプでの学びが、事後の日常生活に生かされている様子が多々見られました。

このキャンプで学んだことを今後の生活にも生かして、一回りも二回りも大きく成長していくことを、心より願っております。

担当：企画指導専門職 小倉 祐司